

2024年8月6日

各 位

News Release

佐川吉男音楽賞実行委員会
第22回佐川吉男音楽賞、同奨励賞の決定について

「佐川吉男音楽賞」（詳細は別添資料参照）の第22回受賞者が以下のとおり決定しましたので、ここにお知らせします。

1. 佐川吉男音楽賞（賞金100万円）
学校法人 大阪音楽大学
「ザ・カレッジ・オペラハウス管弦楽団 第63回定期演奏会」
(2023年11月5日 ザ・カレッジ・オペラハウス)
2. 佐川吉男音楽賞 奨励賞（賞金50万円）
ひろしまオペラ・音楽推進委員会
モーツァルト作曲 オペラ「フィガロの結婚」
(2023年8月26日・27日 JMSアステールプラザ)

なお、贈賞式は、9月27日に日本工業倶楽部（東京都千代田区）にて、関係者により執り行われる予定です。

問い合わせ先

佐川吉男音楽賞実行委員会 事務局
(公益財団法人 三菱UFJ信託芸術文化財団)
堤、友永
〒103-0027
東京都中央区日本橋2-2-4
Tel : 03-3281-0604 Fax : 03-3281-0605

第 22 回佐川吉男音楽賞 贈賞理由

佐川吉男音楽賞実行委員会

音楽賞 贈賞理由

学校法人 大阪音楽大学

「ザ・カレッジ・オペラハウス管弦楽団 第 63 回定期演奏会」
(2023 年 11 月 5 日 ザ・カレッジ・オペラハウス)

オーケストラと合唱団を持つだけでなく、オペラを上演する劇場まで持つ大阪音楽大学は、教育機関ならではの見識と使命感を持って、オペラの自主公演を続けている。民間のオペラ団体では集客に不安があり手を出せない、しかし重要かつ世に知らしめる意義のある作品を、様々な制約を知恵と努力で払拭しつつ上演し続けている。その歴史の中で、今回の指揮者の牧村邦彦も、演出家の井原広樹も成長してきた。彼らの努力と精進は言うに及ばず、それを支え続けた大学側の高邁な教育的見識にも改めて敬意を払いたい。その牧村と井原の獲得した成熟が、出演者や学生、聴衆に還元される。広義での「教育」の具現こそが、正にカレッジオペラハウスの歴史そのものなのではないだろうか。

今回の「モーツァルトとサリエリ」のプログラムも、術学趣味とは一線を画した演奏によって、これらの作品に生き生きとした生命を与え、聴衆の喝采を獲得した。これに続く「ハイドン・オペラ・シリーズ」への更なる期待も膨らむ。

奨励賞 贈賞理由

ひろしまオペラ・音楽推進委員会

ひろしまオペラルネッサンス「アンサンブルシアターⅡ」

モーツァルト作曲 オペラ「フィガロの結婚」

(2023 年 8 月 26 日・27 日 JMS アステールプラザ大ホール)

全国オーディションで選ばれたキャストが柴田真郁指揮のもと、モーツァルトのオペラに欠かせない精確なアンサンブルで歌唱して、「アンサンブルシアター」の名にふさわしい上演が実現した。歌手は地元広島をはじめ海外からの留学生や関西、名古屋、東京圏などからの参加も多く、多様な個性に富んで発展性がある。芸術監督岩田達宗の演出は、戦争の続く今の世界情勢への思いから、作品に内在する「対立」や「争い」、そして「許し」の心を表現。若手が多いだけに演技力の未熟さやアリア歌唱の深みなどには今後の習熟が望まれるが、全体がフレッシュな気概に包まれてオペラの楽しさを伝えることができたのは収穫だった。

ひろしまオペラルネッサンス事業は 30 年以上に亘って継続的に取り組まれ、同地のオペラ活動を向上させたのみならず、近隣の都市にも影響を与え、全国各地の地域オペラからも先進的な取り組みとして常に注目されてきた。その実績は誠に誇るべきもので、国際平和文化都市広島は「オペラのまち」として定着している。その貴重な文化が今後一層推進され、発展していくことを期待したい。